

# 2018年度 第2四半期決算説明

---

---

## イオン株式会社

2018年10月10日

営業収益：**8期連続で最高収益を更新し成長継続**

営業利益、経常利益：**最高益を更新**

親会社株主に帰属する四半期純利益：**+150%の増益**

(億円)

	実績	前期比・差	(第1四半期)	(第2四半期)
営業収益	42,664	+2.3%	+1.8	+2.9
営業利益	898	+48	+29	+18
経常利益	908	+53	+28	+25
親会社株主に帰属する 四半期純利益	105	+63	+28	+34

# セグメント別業績（営業収益）



ヘルス&ウェルネス事業を筆頭に全ての事業で営業収益が伸長。  
GMS事業・SM事業が増収に転じる

## 【営業収益】

(億円)

	実績	前期比(%)	(第1四半期)	(第2四半期)
営業収益	42,664	+2.3	+1.8	+2.9
GMS	15,346	+0.7	-0.1	+1.5
SM	16,298	+0.4	-0.4	+1.2
ヘルス&ウェルネス	3,948	+13.3	+13.4	+13.3
総合金融	2,117	+7.0	+8.7	+5.3
ディベロッパー	1,781	+8.0	+6.9	+9.2
サービス・専門店	3,953	+1.2	+0.7	+1.7
国際	2,204	+8.1	+7.8	+8.5

# セグメント別業績（営業利益）



売上トレンド改善のGMS事業が全セグメントの中で最大の損益改善  
 ディベロッパー事業の海外事業が好調、国際事業は黒字転換

## 【営業利益】

(億円)

	実績	前期差	(第1四半期)	(第2四半期)
営業利益	898	+48	+29	+18
GMS	-58	+40	+18	+22
SM	111	+2	+1	+1
ヘルス&ウェルネス	136	+6	-1	+7
総合金融	319	-9	+25	-35
ディベロッパー	254	+19	+5	+13
サービス・専門店	137	-23	-15	-8
国際	5	+17	+15	+2

猛暑効果の一方で6、7月の災害により8,700時間超の休業時間発生  
8月は特に中旬以降、集中豪雨や台風の影響

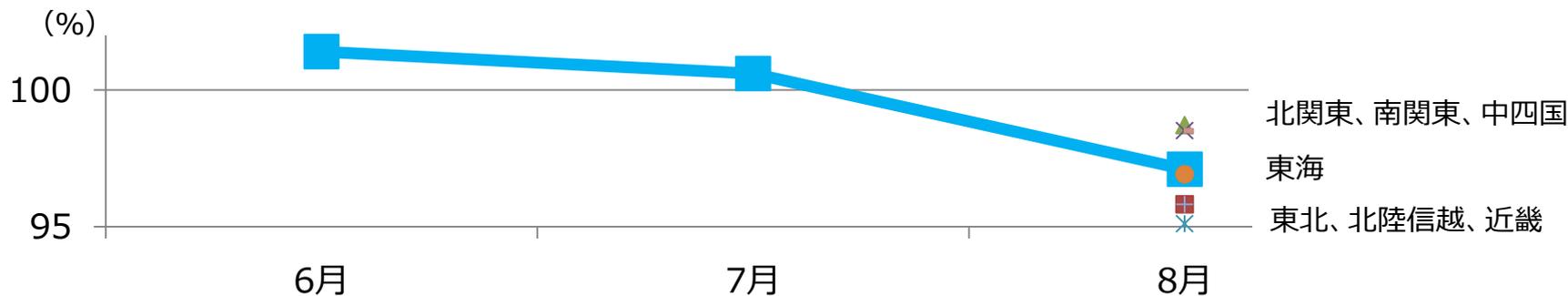
災害  
・  
天候

<6月>  
・大阪北部地震

<7月>  
・平成30年7月豪雨

<8月>  
・記録的集中豪雨（東北 5、31日、  
北日本広範 15、16日）  
・台風が9個発生（24年ぶりの多さ）  
21~24日頃に連続台風  
（19号：接近、20号：上陸）

(参考) イオンリテール 既存店売上高前年比の月次推移



営業利益  
影響  
(グループ推定)

▲6億  
(大阪北部地震)

▲4億  
(平成30年7月豪雨)

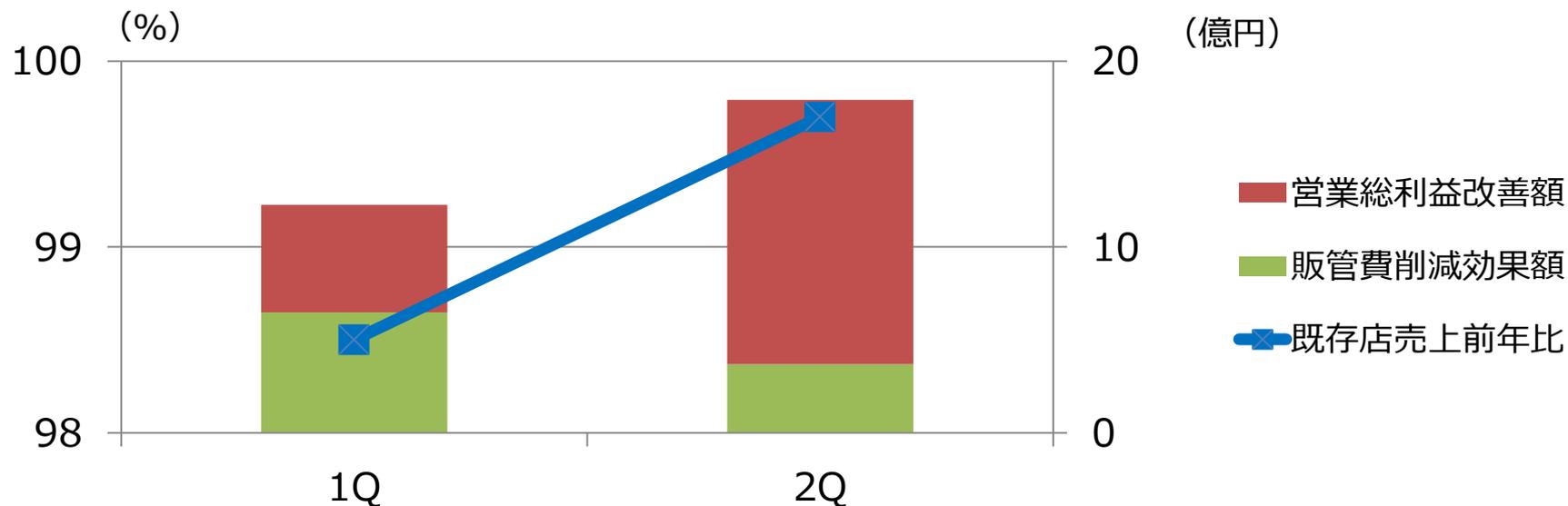
▲28億  
(天候不順)

30億円の損益改善。飲料部門等の好調や「まいにち夜市」の強化等により売上トレンド改善。売価変更の削減やトップバリュ売上の伸長が奏功し営業総利益段階での増益幅が拡大

【上半期実績（億円、％）】

営業収益	前期比（売上既存比）	売上総利益率（前期差）	販管費（既存比）	営業利益	前期差
10,844	100.2（99.1）	26.2（+0.2）	99.7	-35	<b>+30</b>

【既存店売上高前年比、営業総利益改善額、販管費削減額の推移】

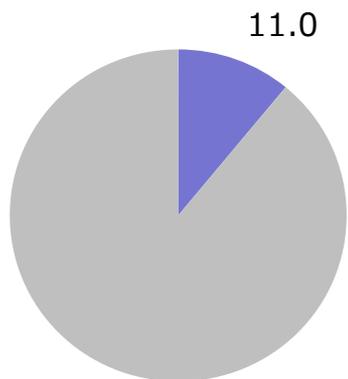


海外の営業利益構成比が拡大。中国エリアは黒字転換

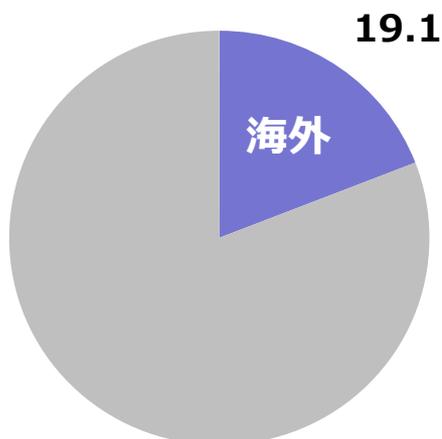
【エリア別 営業利益構成比 (%)】

【アセアン、中国エリアの営業利益実績 (億円)】

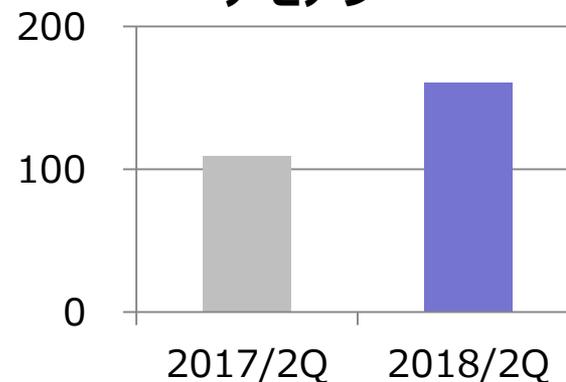
2017/2Q



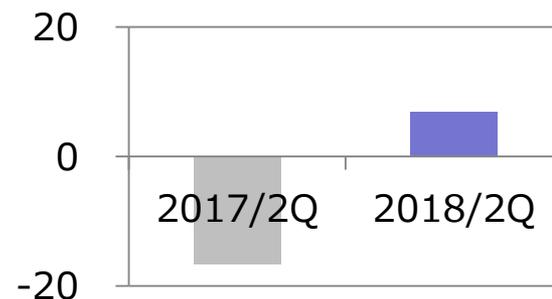
2018/2Q



アセアン



中国



(億円)

	2018年度予想	前期比	前期差
営業収益	87,000	+3.7%	+3,099
営業利益	2,400	+14.1%	+297
経常利益	2,400	+12.3%	+262
親会社株主に帰属する 当期純利益	350	+42.7%	+104

The AEON logo is centered on a white background. It features the word "AEON" in a bold, purple, sans-serif typeface. A horizontal purple oval with a slight 3D effect is positioned behind the letters "E" and "O", partially overlapping them. The entire logo is contained within a light purple rectangular background.

**AEON**

# 参考資料

# セグメントの変更

2017年度	主な移管会社	2018年度
GMS事業		GMS事業
SM事業		SM事業
ドラッグ・ファーマシー事業		ヘルス&ウェルネス事業 ※名称変更
総合金融事業		総合金融事業
ディベロッパー事業		ディベロッパー事業
サービス・専門店事業		サービス・専門店事業
国際事業		国際事業

主な移管会社

コスメーム  
イオンボディ  
R.O.U  
イオンフォレスト

※GMS事業に含まれていたイオンドットコムがその他へ移動

# 2018年8月末 連結貸借対照表



(億円)

資産の部 (主要項目のみ)	2018/2	2018/8	前期末差
現預金	9,180	8,080	▲ 1,099
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	12,921	14,723	+1,802
たな卸資産	6,002	5,801	▲ 201
営業貸付金・銀行業 における貸出金	21,675	23,061	+1,386
有形固定資産	27,551	28,414	+862
投資その他資産	9,284	9,304	+19
資産合計	94,527	98,647	+4,119

負債・純資産の部 (主要項目のみ)	2018/2	2018/8	前期末差
支払手形・買掛金	9,061	9,663	+601
有利子負債 (金融子会社除く)	15,346	15,890	+544
有利子負債 (金融子会社)	8,097	8,507	+409
銀行業における預金	30,072	32,875	+2,802
負債合計	75,360	79,817	+4,457
株主資本	10,619	10,532	▲ 86
純資産合計	19,167	18,829	▲ 337
負債・純資産合計	94,527	98,647	+4,119

		2017年度	2018年度
年間配当金	第2四半期末	普通配当 15円	普通配当 17円
	期末	普通配当 15円	普通配当 17円 (予想)
	合計	普通配当 30円	普通配当 34円 (予想)

# ダイエー再編関連企業の2018年度第2四半期累計実績



(億円)

事業	社名	営業収益		営業利益	
		実績	前期比	実績	前期差
GMS	イオンリテールストア ※関東、近畿、名古屋の 旧ダイエーGMS	689	-3.0%	-34	+9
	イオンストア九州 ※九州の旧ダイエーGMS	286	+2.0%	-7	+2
SM	ダイエー	1,429	-3.2%	-35	-9

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

# スーパーマーケット改革について

---

2018年10月10日  
イオン株式会社  
スーパーマーケット事業担当  
藤田 元宏

2017年12月12日発表

## グループの主要取り組み

- ① スーパーマーケット改革
- ② GMS改革
- ③ デジタル改革

【2020年に目指す水準】

営業収益 10 兆円

営業利益 3,400 億円

# 食を取り巻く環境の変化

## 消費者の変化

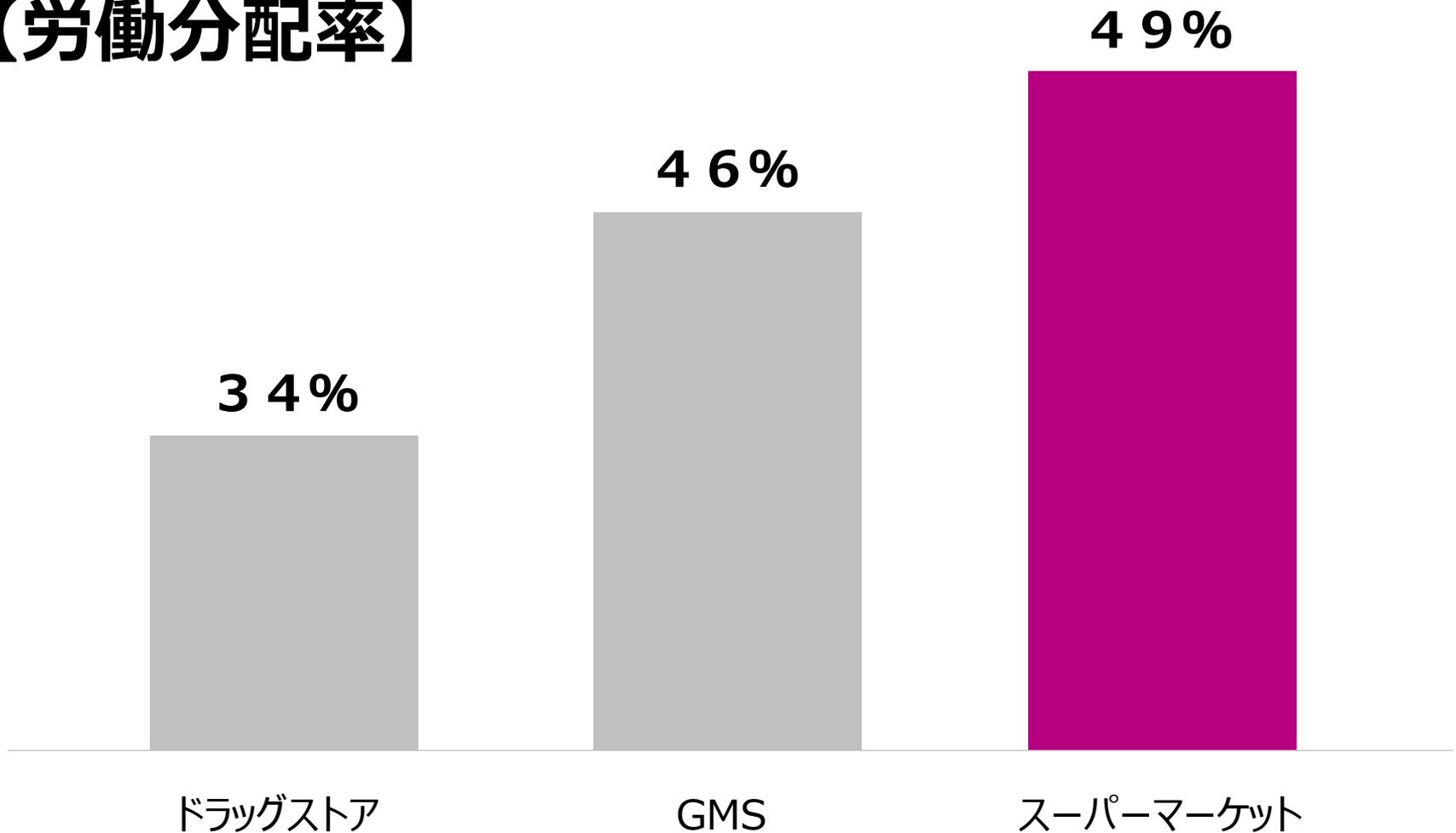
- 低価格志向
- ローカル、ナチュラル、オーガニック、トラディショナル
- 時短ニーズ
- 脱NB／SPA化

## 経営環境の変化

- 競争の激化  
(異業種 異業態)
- 労働環境の変化

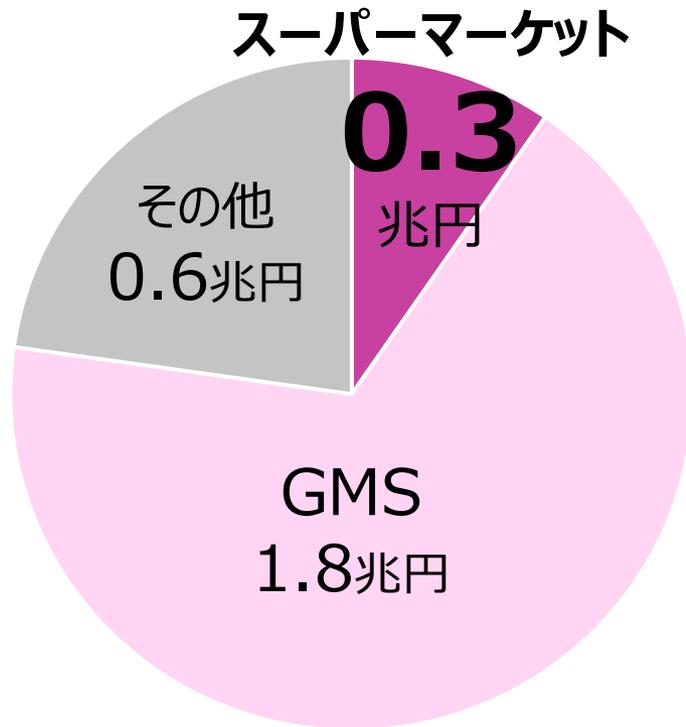
# 食を取り巻く環境の変化

## 【労働分配率】

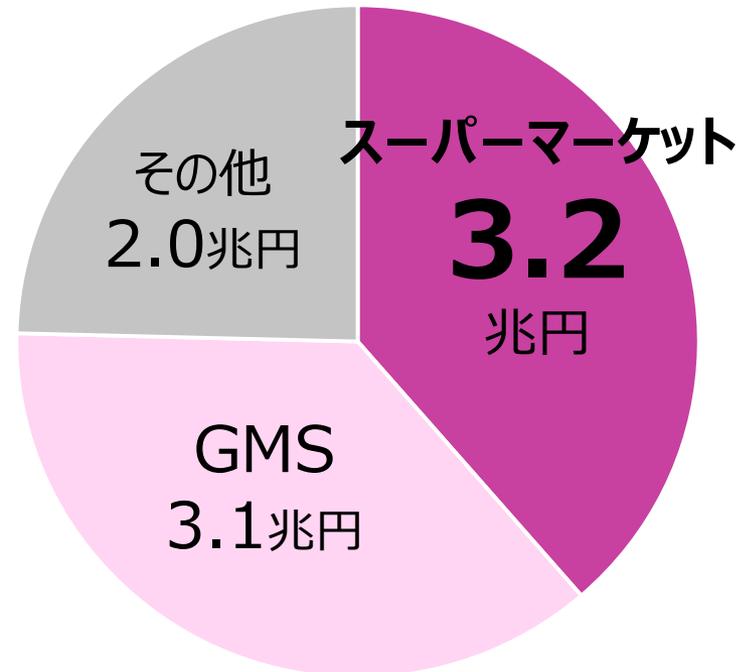


# イオンの事業構造変化

## 【営業収益】



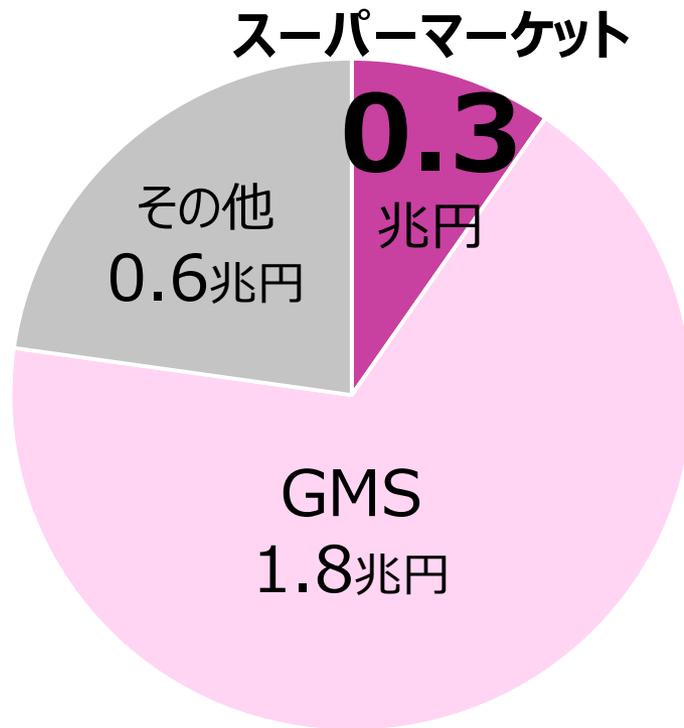
2000年度



2017年度

# イオンの事業構造変化

## 【営業収益】



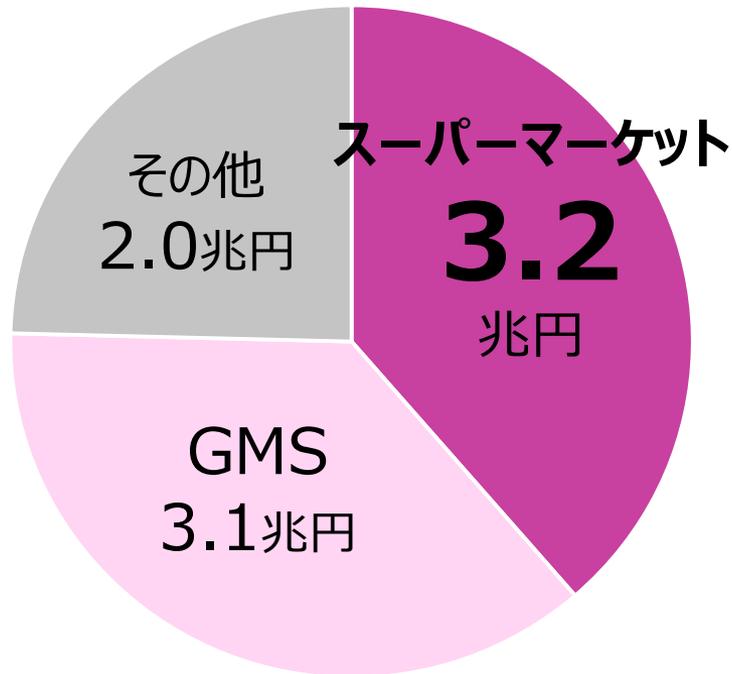
2000年度

GMSを中核に

- 集中化、効率化を実現するインフラ整備
- 大規模化、汎用化で競争力を創出

# イオンの事業構造変化

## 【営業収益】



2017年度

業態に合わせて専用化

- 変化に自在に対応
- 適正規模を競争力に

# 各社の売上高・キャッシュフロー

(2017年度実績・億円)

	売上高	キャッシュフロー
イオン北海道	1,860	100
マックスバリュ北海道	1,240	20
マックスバリュ東北	1,030	20
イオンリテール東北カンパニー	980	80
マックスバリュ東海	2,170	60
マックスバリュ中部	1,720	30
ダイエー	2,800	20
光洋	1,120	5
マックスバリュ西日本	2,690	70
マルナカ	1,780	50
山陽マルナカ	1,220	40
イオン九州	2,140	40
マックスバリュ九州	1,750	30
イオンストア九州	540	▲10

※各社数値は下一桁切り捨て

※キャッシュフローは営業キャッシュフロー

# 統合による売上高ランキング変化

(2017年度実績・億円)

順位		売上高
1	<b>U.S.M.H</b>	<b>6,730</b>
2	ライフ	6,580
3	アークス	5,130
4	ヨークベニマル	4,290
5	ヤオコー	3,470
6	<b>ダイエー</b>	<b>2,800</b>
7	バロー	2,790
8	<b>MV西日本</b>	<b>2,690</b>
9	サミット	2,650
10	オークワ	2,560



順位	統合後想定	売上高
1	<b>U.S.M.H</b>	<b>6,730</b>
2	ライフ	6,580
3	<b>MV西日本+マルナカ+山陽マルナカ</b>	<b>5,310</b>
4	アークス	5,130
5	<b>イオン九州+MV九州+イオンストア九州</b>	<b>4,440</b>
6	<b>ダイエー+光洋</b>	<b>4,310</b>
7	ヨークベニマル	4,290
8	<b>MV東海+MV中部</b>	<b>3,900</b>
9	ヤオコー	3,470
10	<b>イオン北海道+MV北海道</b>	<b>3,100</b>

※『販売革新』(2018年7月号)より試算  
 バローは(株)バロー単体売上高、マックスバリュ東海は単体実績

Copyright 2018 AEON CO., LTD. All Rights Reserved.

※MV西日本、山陽マルナカからダイエー、光洋への移管予定の店舗の売上高は、6位の「ダイエー+光洋」の4,310億円に含まれている

※各社数値は下一桁切り捨て

# スーパーマーケット改革のねらい

地域密着の  
深耕

ビジネスモデルの  
変革

改革を実現するための規模へ

# 統合による成長

## U.S.M.H

営業収益 + 650億円

販売管理費率 ▲ 2%

一社完結の経営をしてきた事業会社が統合することで成長の機会を拡大

### 北海道

イオン北海道  
マックスバリュ北海道

### 東北

マックスバリュ東北  
イオンリテール東北CO

### 東海中部

マックスバリュ東海  
マックスバリュ中部

### 近畿

ダイエー  
光洋

### 中四国

マックスバリュ西日本  
マルナカ、山陽マルナカ

### 九州

イオン九州、マックスバリュ九州  
イオンストア九州

ブランド、インフラを共有する経営をしてきた事業会社が統合することで成長の機会を拡大

互いに学び合い、新たな枠組み、新たな規律への変革に向け加速する

# 統合スケジュール

**2019年3月の  
中四国エリアを皮切りに  
各エリア最短で実行**

# 2025年 6エリアの目指す姿

営業収益

**3.1**兆円

営業利益

**1,100**億円

# 最も地域に 貢献する企業へ

